

2004.3.11

自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」打合せ議事録

- ・日 時：2004.3.11（木） 13:00～15:00
- ・場 所：上野毛本館会議室
- ・参加者：森下教務部長（自己点検・評価部会長） 柿本総務部長、恩蔵総務課長、中島
経理次長、荒川教務事務部長、田中造形表現学部事務課長、総務・石井

・議事概要

前回行った第1回準備会の決定事項の詳細を詰めた。決定事項の詳細を決め、明確なコンセプトを関係者に提示する必要がある。何を、どの程度、どういう切り口で行うべきかを提示する「要件定義書」の素案と、自己点検・評価部会のメンバー素案の説明が、総務・石井からなされた。「要件定義書」の素案は資料のとおり。風呂敷を広げ過ぎず取り上げる項目を限定することで、議論や問題点のピックアップと言ったプロセスを大切にすることにしている。

今日の打合せにおいても、「風呂敷を広げすぎずプロセスを重視する」という基本的な考え方は了解された。「要件定義書」については、もう少し議論が必要な為、持ち帰って意見を石井まで提出すること、そのまとめを石井から投げ返すこととした。

メンバー案についての意見は次のとおり。

- ・小部会報告を取りまとめ部会報告を行うには、どうしたら良いか？統括小部会にその役目を負わせるのか、小部会より一段高い枠組みを作るのか？いずれにしる、何らかの権限をもつ者が責任を持って部会報告としてまとめる形をとるべきだろう。
- ・議論を絞るために、素案では研究活動については省略している（研究評価は学会、セミナーや助成金申請など評価システムが確立しているため）。研究は教育の裏付けであるため、省略を行うべきではない。冗長を避けるため、個人の論文目録というものでなく、大学単位での研究活動などに触れたら良いのでは？
- ・議論を絞るために、素案では教育と学生に関する事項を一小部会で行うことになっている。学生支援など重要事項があるので、学生に関する事項は別に小部会を設けるべきでは？
- ・附属施設・地域貢献に関しては、より広い視野での社会貢献という考え方をすべきでは？
- ・需要・動向に関しては、美術、デザイン界の動向など、扱う事項を広げすぎると漠然とし過ぎないか。志望者・受験生の動向、就職動向に絞った方が、具体的な議論ができるのでは？

上記意見を基に、意見を石井まで提出すること、そのまとめを石井から投げ返し詳細メンバーを詰めることとした。

・決定事項

要件定義書、小部会メンバー、取り扱い事項に関する意見は、3 / 1 5までに石井まで提出すること。

意見を取りまとめて、素案修正を石井が行う。

素案修正を重ねて、決定を行う。

要件定義書、小部会メンバーが決定したら、自己点検・評価部会と部課長会で報告をする。

自己点検・評価部会、部課長会、事務担当等に、要件定義書、進め方の説明などを行う。

以 上